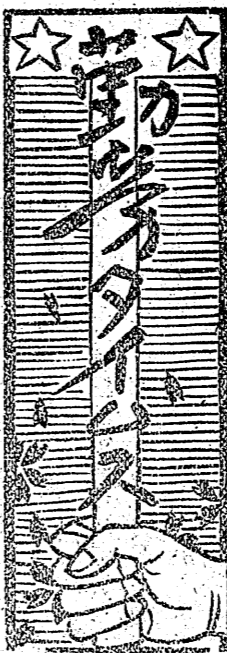


週刊



毎週日曜発行
定例一冊一圓五十錢
一月一圓六十圓
一年一圓六十圓
廣告一頁二十圓
三頁四十圓
五頁六十圓
十頁八十圓
二十頁一百圓
五十頁二百圓
五十頁以上四百圓
郵局掛刷印製人木村安次

本市五丁目
釜屋商店
會計 諸橋元三郎
電話九番九九番

三千ワトン達成に

炭礦の電力増強

排水作業に萬全を期す

植田地区の代表炭礦上山田期的の増産は到底望み難し
田人、東海、三和、品川のどて電力増強の請願中であ
五炭礦では三千萬噸達成計したが、此の程許可せられ
るが電力の不足が採炭上最目下動力線の増設が開始
も大専排水作業に非常なせられてゐる
障害を来たし此の儘では割

平戦災復興

都市計画の感

(2)

都市計畫の實施が都市防災整備が如何に大切なるもので
上有効なる事は明治以來日あるが然るに現在平戦では新
本の各都市の貨物が有力設備や廣場の計畫は市民
に物語つて居る、それは勿論氏にはかへつて曲解され
論反面に消防力の整備もあつて居る場合が多い、或人許
つたが市街地の整備もあつて居る「廊下ばかりの都
地正副整理が大いに役立つ市計畫」机上の空論大衆の
た事は否め無い事實である犠牲に於てのみ成り立ち得
大正十二年の關東大震災近等はいずれも一を知つて
年に於ける空襲に依る日本他を解せざるものとしか言
各都市の被害、静岡、函への嘘々悲しい哉である、
館の大震災に依り市街地の現在の計畫を考て十年後二

十年後又三十年後の平市を考へてしまふ考へるものは赤
想つて見よ、其時になつて子の考へであつて、愚の骨
算めて現在の不協力は成頂である、以上述べたる事
程と感んずるのには必ずや、は何れも既に技術的に言ひ
る、戦災平市に於て現在の古されて来た事のみで新し
チャンヌル計畫せず吹けば、都市計畫家は、技術家特に
飛ぶ如きバラツクを難然と都市計畫家に於ては都市防
何の考へも無しに建てたら、災上の常識程度のものであ
ば平市は將來石城の小都市に釋迎に説法迄も至らない
として寂れてしまふであら然るに世間では決して常識
う、新設する三十六米街路になつてない、眼前の住宅
も反對のために遂に三十米難が甚しい余り建築の値の
幅員となる、反對者は此の問題迄手がごかない現状
三十米が唯一の標準に小平市にしに於ては無理がないと
如き老大な道路は必要無いでは駄目だ、現行よりも將
の如き現実的な薄薄なる考へで現在の發展に及びす
へは常識ある教養人の言葉、想ひを將來の發展に及びす
こは思へない、敗戦の生ん
だ人口過剰に依り土地の狭
きにつれて内地建築は平
的より立体的に延びる事
余義なくされた、それ依
火上は十米の高さの建築
らば街路幅はその三倍の
十米の道路は防火上必要
あると聞く、亦此の大道
のため平市が東西に二分

一市民M.T生

正副團長決る

本市の消防正副團長のゴ
ゴタも去る三日投票の結果
左の通り決つた
團長松本金一 一五一票
副團長猪狩正成一 四一
副團長岡部傳六 一四〇票
これ、平市の消防新正副團
長が決つた譯けである
炭礦見聞記 (5)
三松炭礦の巻
植田交局 啓
常盤線勿來驛より西北八
石城郡川部村に在り中村探
炭株式會社三松炭礦と云ふ
大正初年斯界の先覺者中村
貞三郎氏により開發せられ
幾多の浮沈消長あつて昭和
十八年内田愈氏社長となり
現在に至つてゐる、礦區面
積四十餘萬坪、従業員一六〇
名、常磐炭田の中炭礦で
ある、同礦は開發者の手に
より早くより専用軌道の布
設あり輸送の面に於て完全
なこと、礦業所長中村圭一
氏(熊本高工出身)の研究に
よる石炭の油化操作底温タ
ーの製造に成功し循環油
の自給自足し得る点又格外
底品位炭を出て自給製炭に

成功してゐる点等中小炭礦
として特異の存在である、
嘗て戦前は月産二千七百
噸出炭の記録を持つ同礦も
戦時中の飢餓等に過され終
戦後今日迄割當の九〇%の
成績であるが諸般の整備漸
く成つたので十二月迄には
累進的に千七百噸割當の一
二〇%出炭確實との事であ
る、其の自信を強めるもの
は、何よりも同礦は混然券資
一体の態勢にあること、思
ふ資金の圓滑も資材の豊富
も勢資の對立あつては増産
は望めない、中村所長は勢
働問題に深く關心をもつて
ある勢資の分烈は意見の對
立である、常に忌憚なき意
見の交換は以て勢資合體の
因でありとて従業員の發明
工夫、不平、不満、改良、建策
等凡ゆる意見を求めて毎月
一回集録騰寫して「山の灯
」と題して一般に配布してゐ
る記者は誠に勢組長佐々木
喜代氏副組長半谷勝男青年
部長蓬田文之吉職員部長渡
邊平二氏に所信を問へした
各れも同音に中村氏の人格
を賞揚すると共に劃期的増
産を誓つてゐた三千萬噸達
成の上に完全に和を得た事
は大きな計画の一つである
と信じ同礦の發展を期待す
るものである

皮肉ではない

鐵道員の良心に問ふ

最近湯本町では何れの職場を無視してまでも乗客が親切であるか凡く投票に客の便宜を圖るのが親切な訴へたといふ、その結果湯本のかまや苦勞して増産した本驛が第一悪いのは警察と石炭を鐵道員の家で消費したる職員の性質上無理解から家として消費され居るゝゝ同情もされよう、のである、序に語らねばならぬ、湯本驛員の親切振らぬことは車輪を走り止めるは妥當でないのに驚くのがクツキ進行中金属の音である、乗客が發車時間の聞くがこれを改善しよう、際に階段を昇る暇もないのとする氣配はみえぬ何處で線路をこび越え或は窓か驛にも散見されるこれは出入りしたりして乗車す石炭も多く使ふことだらう、のが甚だ多い中には走りし延着の原因にもなる管だひかけて乗車するものもある

北州會を尋ねて

北州會を尋ねて 一日入道野村村に上道野北州の意のまゝにして居る會長を尋ねて其の趣旨規約は日本人の公共心なり道を尋ねた、吾が郷土より最り徳なりが何處にありや疑ふ初の大匠たらん否な大人物ものである、こうした大切たる小澤代議士の後援會は

日本再建するには

道義心を必要

江名町近藤町長語る

封建思想から民主主義思想忘れてはならない、早へと變換したがこれが切換言へば經濟情態に於てアは容易ならざるものを認めメリカに比し著しく貧弱なるたゞ民主主義の機構の改日本經濟である故に自から革だけやつても心の改革をそこには異つた民主主義も

家をめぐるごたく

暗闘する悪家主と 氣の毒な店子

凡ての物價が公定を尻目に高くとも借家をしたいと焦底知れず高騰を續ける時家慮している、茲に悪家主が價は比較的安定を得ている出現する、そうして永年借の感があるが然し一般大衆家している善良な借家人に借家賃の安い事を是認し對し種々な口實を設けて立てているだらうか？貧家賃で退きを迫つて来る立退を食へると一應尤もだど領ける底知つては争ふ力が足る事もある、家主は定められりない、口惜いが謝禮とか家賃では食へない然し何んとかの名目で家賃の外はた公然と値上げは出來に相當の金品を家主又は差配人に贈呈して延期を懇願する、斯くして關々裡に正

社告

小 林 清
右者昭和二十二年九月二十七日
退社致しました。

平讀書クラブ

會費一ヶ月七圓
日本讀書新聞無料配布
規定書當店にあり
會員數限定お早く御申
込下さい
申込所 マルトモ書店
平市四丁目電話二三三四番

松村醫院

福島縣平市白銀町
電話一〇七番

吳羽化學工業株式會社錦工場

工場長 長谷川 孝七
次長 浦 山 武 一
電話(植田)三四二五番

皆様御期待の 『嵐の青春』

十月六日より
十月十二日まで

聚樂館

美しい飲みもの、
美味しいケーキ
純喫茶店 新扇屋
平市中央通り
電話八四五番

皆様の店

雑貨 葡萄酒屋
植田町台町
電話二〇九番

誠實勉強の店

雑貨 江畑屋商店
植田町本町

履物の御利用は

最新型 製靴販賣 スワ靴店
所屬一式 植田町驛前